

同時進行型

児童生徒発表型



大阪市立東都島小学校
清水 義雄
仲津 明代

実践テーマ

食べるということは、さまざまな動植物の生命をもらっていることを考えさせ、そこから自分が生き続けられていることに気付かせ、生命を大切にする心を育てる。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 1学期のさつまいもの苗植えの時のことを思い出せるよう画像を電子黒板上に提示する。(日常生活の気づき)
- 〈展開〉 ・絵本をプレゼンテーションソフトウェアで提示する。(道徳的心情)
・児童の気持ちをワークシートに記入し、実物投影機で提示する。(道徳的判断力)
- 〈まとめ〉 植物が生きていることがわかるよう実際の植物の芽を拡大して提示する。(道徳的实践意欲)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	・写真を見て、1学期にさつまいもの苗を植えたこと、またその時の気持ちを思い出す。《児童》(静止画①)	●写真(さつまいもの苗植え)
展開	・プレゼンテーションソフトウェアで絵本を見せる。《教師》(PC教材) ・挿し絵の一部分を拡大機能で大きく映す。《教師》 ・ワークシートに気持ちを書く。《教師》	●絵本「いわしくん」(菅原たくや作・文化出版局) 使用ソフトウェア： PowerPoint® (Microsoft Corporation)
まとめ	・実物投影機でワークシートを映し、発表する。《児童》(静止画②)。 ・児童のワークシートを実物投影機で映し、児童の発表にあわせて線を引く。《教師》(静止画②) ・さつまいもやモミの実物を実物投影機で見る。《児童》(実物)	●ワークシート ●実物(さつまいも・モミ)



写真を見て、さつまいもの苗を植えた時のことを思い出す



挿し絵の一部分を拡大提示



モミの実物を提示

児童の反応・効果

- ・絵本を電子黒板で拡大して見せることで、より見やすく、内容を全体で共有できた。
- ・拡大機能を活用し、挿し絵を大きくすることで学習内容への興味や意識が高まった。
- ・友だちの発表内容を視覚、聴覚で確認し、自己への気付きが深まった。
- ・植物の小さな芽を拡大して映し出すことで、生命力の不思議さ、生命あるものに対して大事にする心が芽生えた。

活用のポイント

- ・道徳の授業として、板書で残すべき部分と電子黒板機能の活用で終わらせる部分の精査を行うとより効果的である。
- ・提示効果が高まるようなワークシートの構成を考え、児童同士の意見交流を活発にすることで心の葛藤が十分に持てるように工夫を行うとより理解が深まる。